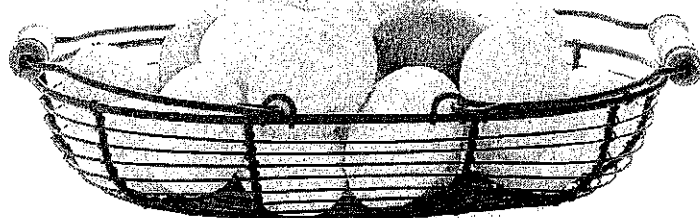
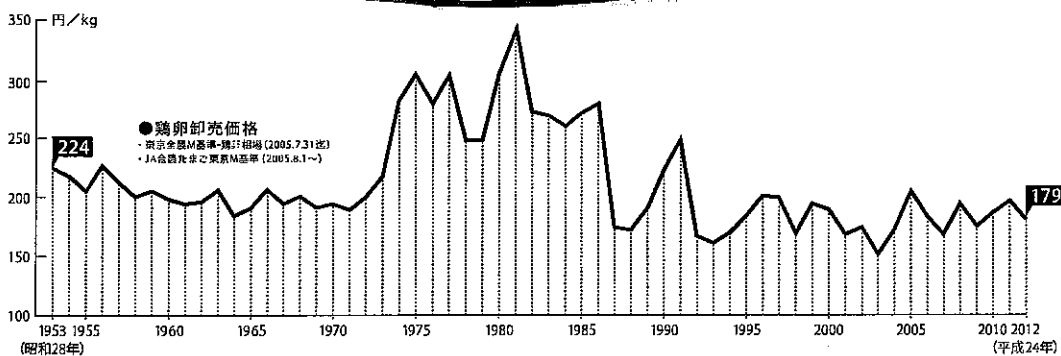


# 卵の未来を、 助けてください。

卵が生食できる。実は世界でも珍しいことなのです。これは日本の鶏卵生産者の品質管理が優れている証拠です。しかし今、「卵の生食」に危機がきています。安全のためのコストが膨れ上がり、生産者の経営状況がととも悪化しているのです。



たまご1kgは、Lサイズでは15個、Mサイズでは16個くらいの目安になります。



卵の卸売価格は、  
昭和20年代よりも安いのです。

現在の卵の卸売価格は、なんと60年前よりも安いのです。一方、飼料代などの生産コストは高騰しています。そのため採算割れを起こし、鶏卵生産者たちはどんどん廃業に追い込まれています。

世界トップレベルの衛生管理が、  
危機に直面しています。

サルモネラ菌や鳥インフルエンザウイルスなどの病原体から卵を守るため、徹底した衛生管理を行っています。しかし厳しい経営環境は、こうした管理システムの維持を脅かしかねません。

## 卵が生で食べられない。そんな時代を阻止したい。

年を追うごとに厳しくなっている経営状況のなかでも、特に昨年からは一層厳しく、もう限界だという悲鳴が多くの仲間たちから上がってきています。それでも高い栄養価を日常的に摂れる「身近さ」や、独特の食文化である「卵の生食」を守るためにも、安全な国産鶏卵の、安定的な生産・供給に、日夜努力し続けています。私たちの苦しい現状と熱い思いを、どうか、ぜひご理解ください。

一般社団法人 **日本鶏卵生産者協会** / 社団法人 **日本養鶏協会**